

なんばパークス(商業棟)

Namba Parks

No. 03-005-2010更新

新築

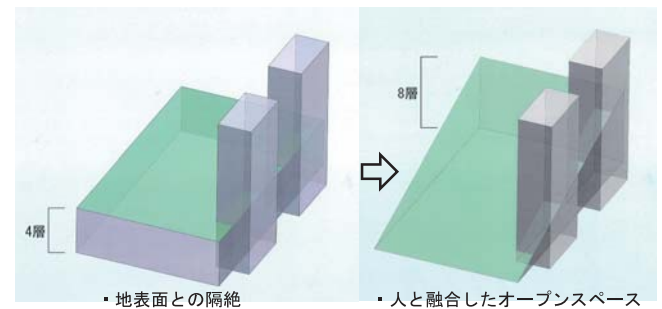
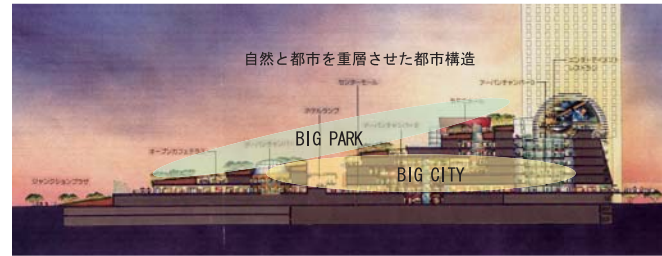
事務所/物販/飲食/その他

発注者	南海都市創造株式会社、株式会社高島屋	カテゴリー	
設計・監理	株式会社大林組 デザインパートナー：ジャーディ・パートナーシップ INC OBAYASHI CORPORATION Design partner: THE JERDE PARTNERSHIP INC	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO ₂ 技術
施工	株式会社大林組	C. 各種制度活用	D. 評価技術/FB
		E. リニューアル	F. 長寿命化
		G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携
		I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性
		K. その他	

都市と人と自然との共生まちづくり

自然と都市とが重層した都市構造

なんばパークスは2007年4月、大阪球場の跡地を含む3.3haの新街区に誕生した複合商業施設である。「都市と自然と人の融合」をコンセプトに都市 (Big City) の上に自然 (Big Park) を重層させた新しい都市の構造を生み出し、第2の大地とも呼べる段丘状の屋上庭園「パークスガーデン」は、来訪者が自由に回遊できる屋上緑化広場となっている。段丘状にせり上がる建物の各階には、街と自然が身近に接する広場やテラスを設け、都市と自然の二つの楽しみを同時に体験できる場とした。



自然と都市の重層化



北側からの俯瞰



地表面から連続する緑

所在地	大阪府大阪市浪速区
竣工年	I期：2003年 II期：2007年
敷地面積	33,729.30 m ²
延床面積	244,073.20 m ² (事務所棟を含む)
構造	SRC造、一部S造
階数	地下4階、地上9階 (商業棟)

エコロジカルランドスケープ

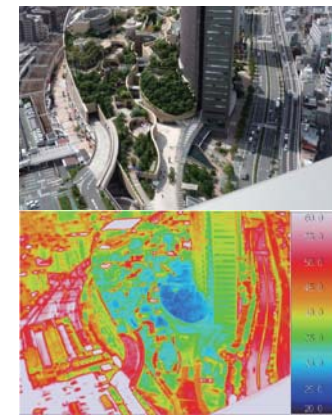
屋上緑化広場の広さは約1.15haあり、民間開発事業では国内最大級の規模となる。

屋上緑化の基盤づくりにあたっては、地上階から連続する園路に沿った斜面緑地を形成させるために、表土の流れ止めを考慮して傾斜角20度を目安にした階段状の躯体断面構成とし、土のかぶり厚は平均550mmとした。また、施工性を考慮して、躯体による段は極力シンプルな形状とし、細かな段床は、スタイロフォームで確保して積載荷重の軽減にも配慮した。

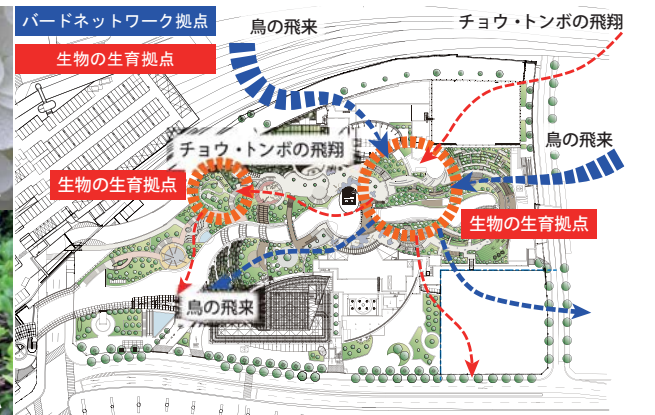
屋上に植樹する樹種については、エコロジカルランドスケープを考慮し、コナラ、ヤマザクラ、ヤマボウシといった四季折々の表情を持つ樹木を「地」となるベースの緑として選定し、300種の多品種混植によって、野鳥の飛来や昆虫類の生息といった生態系の保全を合わせた持続可能な緑地の形成を行った。鳥が好む実なる木や、バードパスにより周辺から飛来を促す環境となる。さらに小さいながらも湿地や草地等多様な環境づくりを行うことで、トンボや蝶の産卵、幼虫の育成環境を実現している。

また屋上にある緑は、ヒートアイランドを緩和し、建物本体の空調負荷を軽減する等省エネ対策として有効である。

2009年7月より、生物 (鳥類・昆虫類) の生息調査及び熱環境調査等を行っている。



屋上緑化によるヒートアイランドの抑制



生物の生息環境の創出

成長する街、社会の継続

自然と都市とが重層した新しい都市構造を持つ、自然と都市と人が融合共生したまちづくりがなんばパークスである。都市の建築が自然にやさしくミナミの街歩きと娯楽の文化を継承し、形成された社会こそが、サステナブルデザインの実践でもあると考える。

設計担当者

統括：大井昇三
建築：松原知三、牧野雅一、山田隆司、戸倉由美子
構造：安井雅明、藤井彰人、守安一平
設備：鮎合剛、市川和男

主要な採用技術 (CASBEE準拠)

- Q3. 1. 生物環境の保全と創出 (外構緑化・建築緑化・地域の郷土種への配慮・野性小動物の生息域の確保・建築緑化の風対策)
- Q3. 2. まちなみ・景観への配慮 (建物配置や形態のまちなみとの調和・新たなシンボルの形成)
- Q3. 3. 地域性・アメニティへの配慮 (空間提供・暑熱対策、敷地内温熱環境の改善)
- LR1. 1. 建物の熱負荷抑制 (高気密、外断熱)
- LR2. 1. 水資源保護 (節水型機器・雨水利用・雑排水利用)
- LR3. 2. 地域環境への配慮 (建築緑化・保水性、浸水性材料)



キャニオンテラス



緑の中の散策路